外組八十七組之内

才九尾

新慶賀香　遐齢香
朞千年香　常盤香
御幸香　糀漢薫香
扇面香

已上

多9
1338
44

門ヲ多9
1.998
44止

外組香八十七組之内 ~~十九~~

新慶賀香　遐齢香
昏千年香　常盤香
御幸香　和漢六儀香
扇手香

新慶賀香

香四種

鶴ゝて　三包 但内一包代

桑ゝて　右同ゝ

蓬莱ゝて　右同ゝ

答て

一包徳斌

右斌香三種おくて出来七包却て文姪生
斌ょ今れ却而ょ斌の香客々紙袋
常のもの但本香の下ょ香の出るすくん侍
句と一行ょ書而左のもの

喜茶辰今月歓無極

洛中金の人も万歳と書而其ふい
丘教と書而客の香と慶賀と書而
此香の中ょもて侍の一句と中の中段ょ
書而侍句左のもの

初咲れい

長生殿裏春秋富々書

拾咲れた

不老門前日月遲々云

鶴の下に咲出れい

曉洞天花見鶴遊々云

亀の下ゟ出れた

花菫東閣万年盃々云

蓬莱の下ゟ出れた

九天春色醉仙桃々云

右の詠と各一句て書角一又巻の上
にてきりくの奥に歌一首書角
巻番五種まてのうちに入れた
万代を長に八千代に細石乃
いはほとなりて苔のむすまで

巻番六七に出れた

ちはやぶる神代も聞かぬ竜田川
唐紅に水くくるとは

万代や角凡四

高砂の松の色をそ能て左の
ち

新慶賀香記

慶賀

名札

嘉衣今月欲盃極　蓬莱　鶴　紙

名札

長生殿裏春秋富　四　蓬莱　鶴　紙　慶賀

名札

花萱東閣百年盃　万歳　蓬莱　鶴　紙　慶賀

蓬莱　鶴　紙　慶賀

曉洞花花見鶴遊　五

月代も千代に栄ぬる乃
いとなみてすむ世のもてなし

月日

出香　名乗

記録を頃和歌百首

遐齡香

香五種

一〻〻〻　二色ゝ徳内一色試

二〻〻〻　右同断

三〻〻〻　右同断

四てん　一包に徳試な

五てん　二包に徳内一包試

右紙香を鶴有遐齢と詩句をもて

紙多齢を懐るゝ秀句なり右試香

四種終て出香五包を焚炷出て

出香五種を歌の五句を配合して

名乗紙に書付出す事歌左乃

ごとし

松の色も千代のすゑ白鶴の

尽るこのよや幾千とせ

右試香名乗紙に書付出す四の香

試みに歳と尽くし少しづつ後に俳諧の

記録歌の一句に得て後に少点数ハ

一句二句と書留 全の人に一首書抜

記録の句に仕立て左の通

遐歳香之記

[illegible]

名 [illegible] 三句

名 [illegible] 一首

月日 出香 名乗

記録に於て順番

千年香

香三種

一ゝて　五包内一包代

二ゝて　四包内同り

各ゝて　三包代共

右試香終て二茶の六包 廿交て円三
包作り終り三包を一の香へ加へ七包にして
煙出を角て試合て書付出を角て試い
二茶の香をまぜて出て二茶
の出るまでに左右員とまの下に文付出を下し

二二二とまい
三ヶ所とまる書
ウニ二ノ
ニニウ〜まい
ウウウ〜まる
ニウウノ〜まい
ウウニ
ウニウノ〜まて
ニウニ
なるを孤の書
ふるまるを
花さく春まを
遠を知きを

山一句と書付たる事 右一二三の文字の下
に書る事 山三種の内皆南ハ点数の花る千年
と書一種南と相生と書一炷南ハ常盤と
也 抜花の角と一本なるを又三種の玉を
本書の下に歌の句毎に点歌の歌のこと

三ツ年よりなるとの花のこと
花さく春とあるこれまた

一

二

替千歳香花

三ツ年よりなるとの花のこと
花さく春とあるこれまた

一二二二ウ一

名 一二二二一ウ一 あるとの花の 千歳

名 一二ウ一ウ一一 花さく春 常盤

名　ウ一二ウ二八　遊女名寄　一

月日　出香　名来

きくの花と雅平年

常盤香

磐ノ方ニ

香五種

一〻て　三包ゝ保茂

二〻て　右同ル

三〻て　右同ル

四て　右同り

五て　右同り

先初め三包て結ひ終て已上五結

て結ひ終て交一結ひて炷出す

同香別香の結きて合す札て

紙にて包み香三種一結にて各同

一ツ書にて結ひ紙

一二三　一二二　三三四

四一四　五五五

巻結にて包み表に書て

札ヲ結ブ人の歌

一二三と申ハ　千年　一二二と申ハ　若緑

三三四と申ハ　下紅葉　四一四と申ハ　相生

五五五と申ハ　十返

右三色を初中後と立申候の歌

寿命

常盤香之記　一二三四五

名	月日	名
初五	初十	初十
中五	中十	中十
後五	後十	後十
初一	初千	初若
中二	中千	中緑
後三	後千	後千
初四	初生	初相
中四	中生	中生
後四	後生	後生
初三	初紅	初下
中三	中葉	中紅
後三	後葉	後葉
初一	初若	初若
中二	中緑	中緑
後二	後緑	後緑

出香名乗

常盤

記録を進ず又曰一二三四五を一二三
各々少武有其時一二三五色て
諸用色て試各三色紙
一二三　千年　一一一　若録
二二三　下紅葉　三一三　相生

ウウウ　十返

此下者後代の茶

御幸香

香五種

小倉山　名付　三包　袋入　一包紙

峯の紅葉　名付　右同断

心あてに　名付　右同断

今一度の名付　右同断

御幸待乃名付　一包徳成

右試香四種終て本香の内御幸待乃

の一種を除て残八包を折重ね内四包

に炷出て試合ゆへ扱残四包を御幸

待乃と名付　五包交合炷出し一炷聞

て御幸待乃の香出次第に香終る

取記録扱方の事

御幸香之記

茶の紙業小倉山　心あらば御幸待乃

心ありて　今百乃　小倉

峯の紅葉　心あらば　今一度の行幸まちえん　小倉山

名乗四

峯の紅葉　心あらば　今一度の行幸まちえん　小倉山

名乗完

月日

出香　名乗

紀保[illegible]　[illegible]

[illegible]

和漢六儀香

香四種

一〻〻〻　置徳内包紙

二〻〻〻　右同断

三〻〻〻　右同断

答て　三包ノ法式

右常の通り一二三の試炷出香十二包ヲ
文内六包ハ常の如く試ヲ合札ヲ以開炷て
孫の六包ヲ何レ殘りたる者ヲ紙ニ書付
出す者先紙の殘香ヲ記録ヲ以て後

出香ヲ三ウウ二ウ三ヲ出ス内殘ヲ
一一一二二三ヲ書後ヲ後ヲ少
間ヲ置て下ヲ書　扨本香ハ先殘の香間
き上ヲ書同出香下ヲ書ヲ出香の人の殘
香ヲ次第ヲふ構　礼ヲ書畢　直法ヲ先

下ゝ拵事　下ゝ南りきゝ上ゝ五ゝ蔵る

所ゝ老紀録の事ゝ　手ゝ代の事ゝ

和漢六儀香之記

名　ウニウ三三ウ　三二二二一

二三三ウウウ　三一一三三一　十二全

名　一二二二三三　三一一ウウウ　五

名　二三三ウウウ　三一一三一二　九

月日　土香　名乗

きゝゝ稔ゝ　ゝ代ゝ事

扇爭香　五明軍〻〻〻

香四種

一〻〻〻　冒〻侯内一包代

二〻〻　右同断

三〻〻　右同断

一色侯式

客ハ

式終テ出番ニ十色打ヲ炷出ス一炷
ヲ聞キ南ヲ上ニ先ヲ落人数
役番ヲ盆ニ乗テ出ス尤番のお骨ヲ
器のヲ里ニ十の字ヲ付テ並ベシ

終ル一本ヲ立テ聞キ要の方ヲ向ケる
シテおヲ主客札の餘ヲ一枚ヲ出
ス南ヲ向テ一間ヲ進ミ出ス
客主人ハ三間進む其外の客南
二間ヲ進ム主ハ要の孔ヘ行

[illegible]を勝手に[illegible]
一人[illegible]を早く行[illegible]
不取要といふ[illegible]
又[illegible]
有付き[illegible]

札を一間目[illegible]
記録を常の[illegible]紙を[illegible]
下元拾[illegible]

[illegible]
一ウ三二一二三三

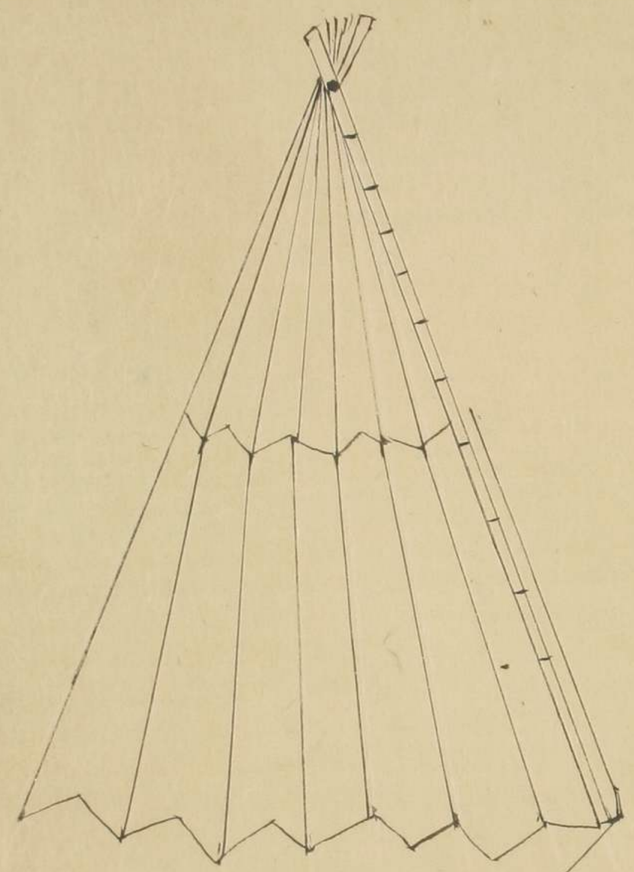
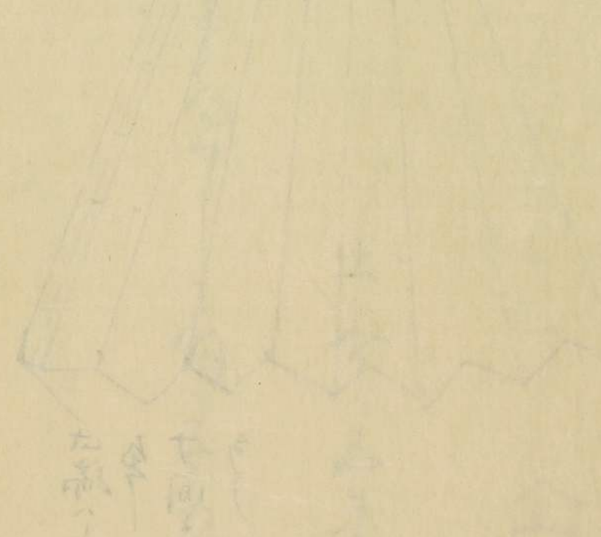
名れ

名れ

ウ　二　三　三

一ウ三二一一二二三三　全

月日　出雲名乗

きうれい進ぜ申す角子の扇

左のごとく